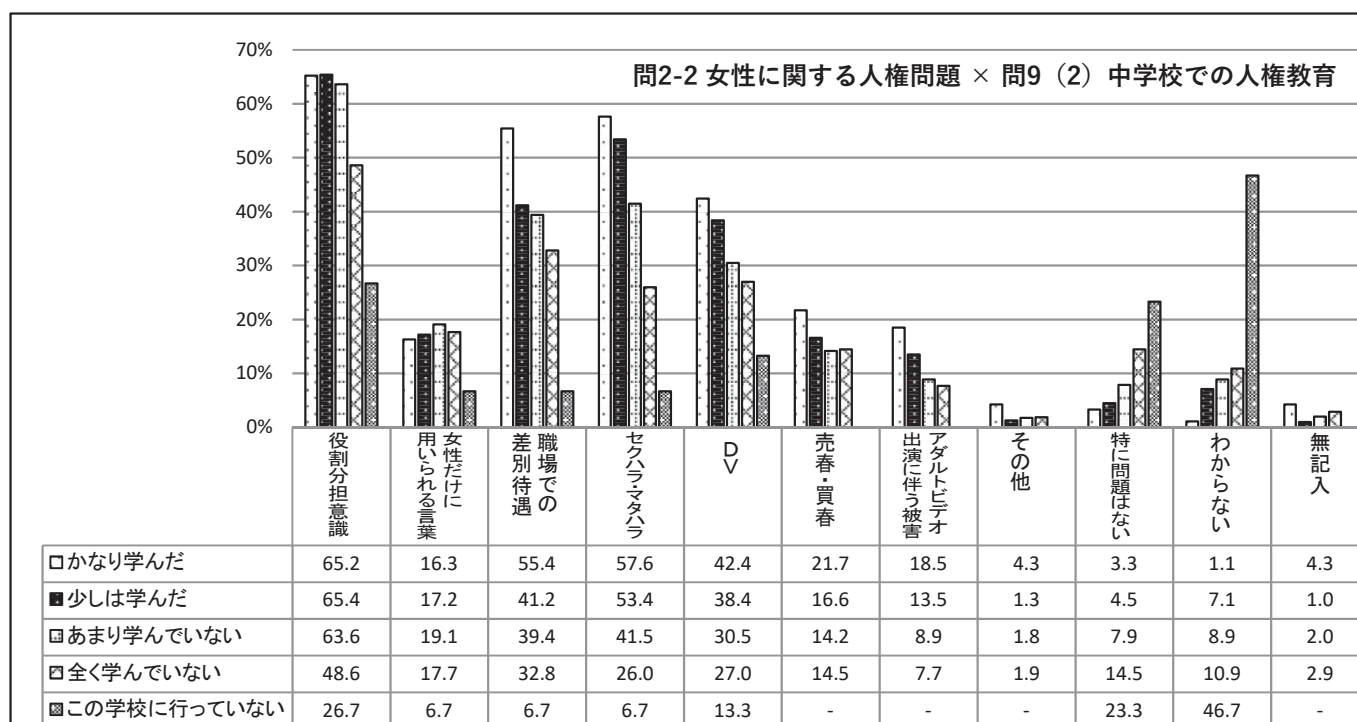


「アダルトビデオなどに出演したことで被害を受けること」について、視聴したことがある人では 14.0%・視聴したことがない人で 7.1%と、テレビ・ビデオ・ラジオなどの影響が大きいことがわかります。



「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱い」について、中学校で人権教育をかなり学んだ人では 65.2%、少しは学んだ人で 65.4%、あまり学んでいない人で 63.6%、全く学んでいない人で 48.6%となっています。「女性が管理職になりにくいなど職場において差別待遇を受けること」について、中学校で人権教育をかなり学んだ人では 55.4%、少しは学んだ人で 41.2%、あまり学んでいない人で 39.4%、全く学んでいない人で 32.8%となっています。「セクシュアルハラスメント、マタニティハラスメント」について、かなり学んだ人では 57.6%、少しは学んだ人で 53.4%、あまり学んでいない人で 41.5%、全く学んでいない人で 26.0%となっています。中学校で人権教育をあまり学んでいない人・全く学んでいない人で「特に問題はない」「わからない」が多くなっています。

問 2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する(1)～(6)の考え方について

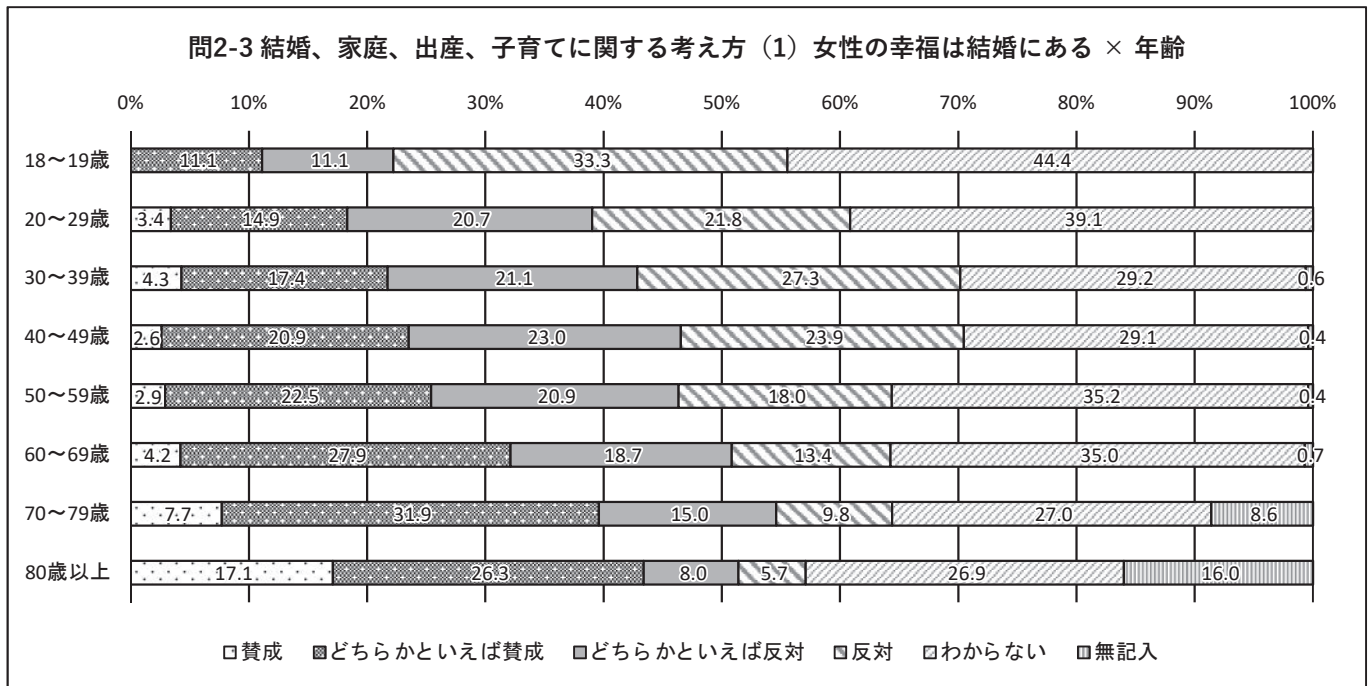
(1) 女性の幸福は結婚にある

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	賛成	91	5.9	6.2	8.2
2	どちらかといえば賛成	378	24.6	25.6	30.2
3	どちらかといえば反対	275	17.9	18.6	15.0
4	反対	252	16.4	17.1	11.7
5	わからない	481	31.3	32.6	26.8
	無記入	62	4.0		8.2
	N (%ベース)	1,539	100	1,477	1,996

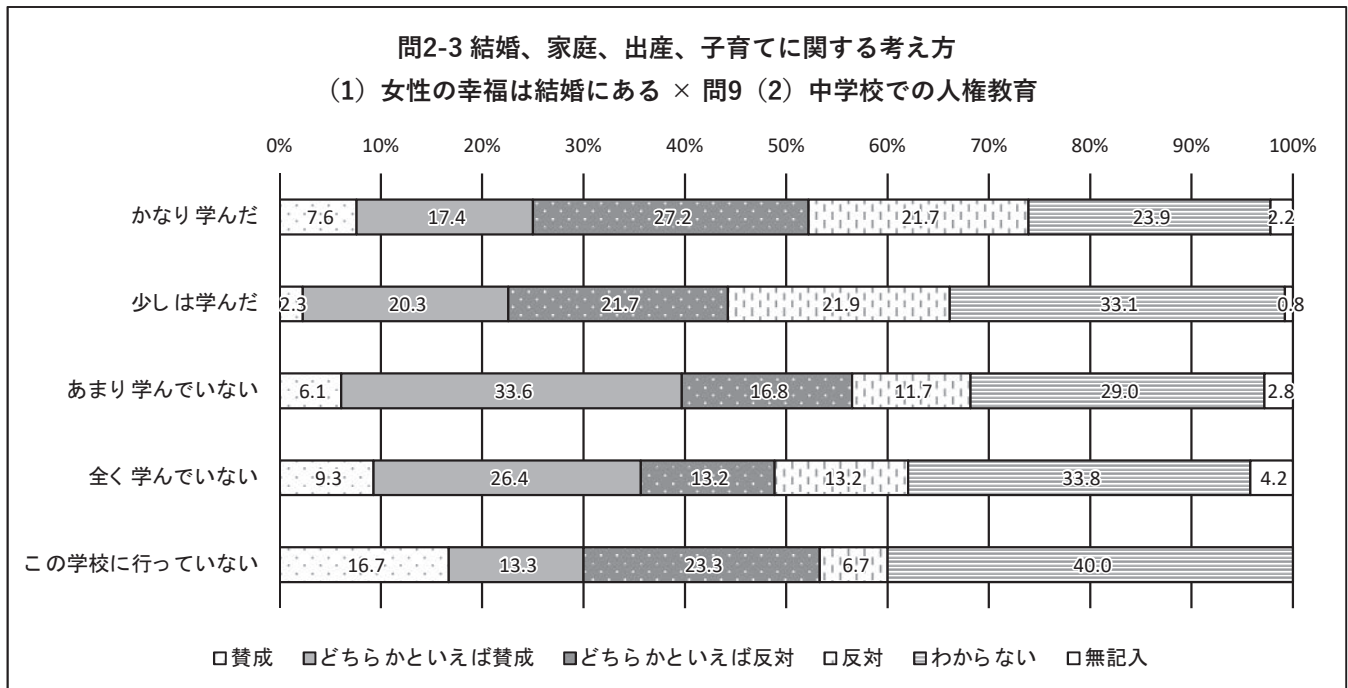
「結婚、家庭、出産、子育てについての考え方で、あなたのご意見に最も近いものはどれでしょうか。」の(1)「女性の幸福は結婚にある」という考え方について、「賛成」91人 5.9%(6.2%)、「どちらかといえば賛成」378人 24.6%(25.6%)、「どちらかといえば反対」275人 17.9%(18.6%)、「反対」252人 16.4%(17.1%)、「わからない」481人 31.3%(32.6%)、「無記入」62人 4.0%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「反対」が 4.7%・「どちらかといえば反対」が 2.9%、合わせて反対が 7.6%高くなっています。「どちらかといえば賛成」が 5.6%・「賛成」が 2.3%、合わせて賛成が 7.9%低くなっています。「わからない」が 4.5%高くなっていますが、「無記入」は 4.2%低くなっています。

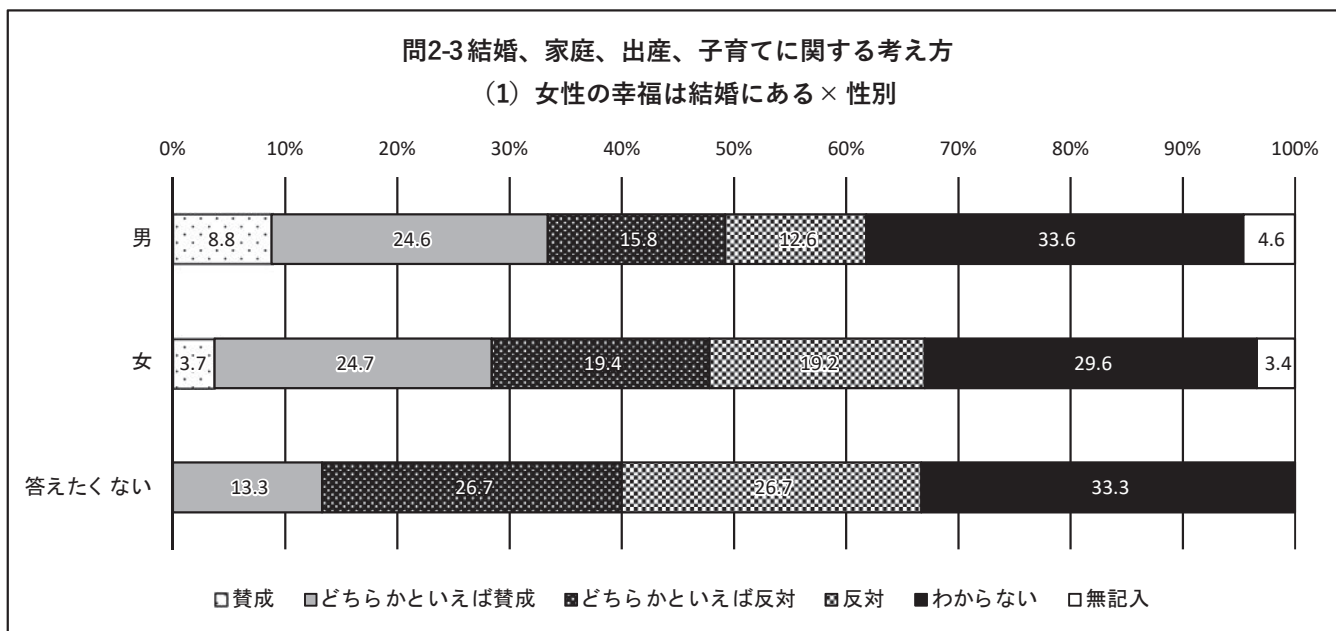
10の説明変数との多重相関は0.344で有意な分析です。年齢と大きな関連があります。次いで、中学校での人権教育、性別が関連しています。広報紙の人権関連記事を読んだことがあるか、人権関係のテレビ・ビデオ・ラジオ等の視聴、人権関係の講演会・研修会等への参加とは有意な関連はありません。



女性の幸福は結婚にあるという考え方について、「賛成」が18～19歳では0%、20歳代で3.4%、30歳代で4.3%、40歳代で2.6%、50歳代で2.9%、60歳代で4.2%、70歳代で7.7%、80歳代で17.1%となっています。「どちらかといえば賛成」もほぼ年齢とともに増加します。「反対」は、18～19歳では33.3%、20歳代で21.8%、30歳代で27.3%、40歳代で23.9%、50歳代で18.0%、60歳代で13.4%、70歳代で9.8%、80歳代で5.7%となっています。ほぼ年齢とともに反対が少なくなっています。



女性の幸福は結婚にあるという考え方について「賛成」が、中学校で人権教育をかなり学んだでは7.6%、少しは学んだでは2.3%、あまり学んでいないは6.1%、全く学んでいないは9.3%、この学校に行っていないは16.7%となっています。「反対」はかなり学んだでは21.7%、少しは学んだでは21.9%、あまり学んでいないは11.7%、全く学んでいないは13.2%、この学校に行っていないは6.7%となっています。



女性の幸福は結婚にあるという考え方について「賛成」が、男性では 8.8%、女性では 3.7%となっています。「反対」は男性で 12.6%、女性で 19.2%、性別を答えたくないで 26.7%となっています。

(2) 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	賛成	758	49.3	51.1	42.7
2	どちらかといえば賛成	394	25.6	26.6	24.8
3	どちらかといえば反対	168	10.9	11.3	12.0
4	反対	43	2.8	2.9	4.9
5	わからない	119	7.7	8.0	7.0
	無記入	57	3.7		8.6
	N (%ベース)	1,539	100	1,482	1,996

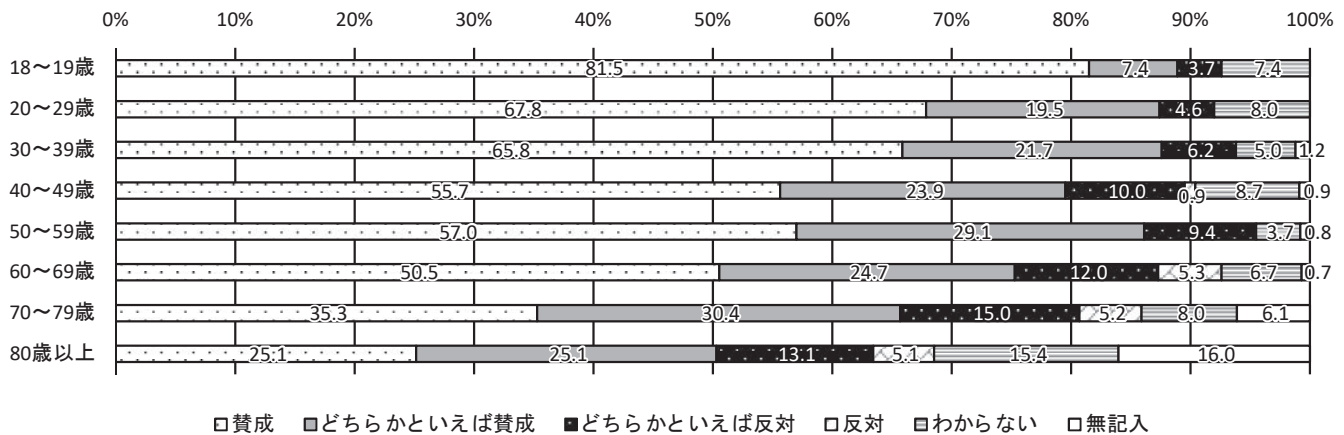
「結婚、家庭、出産、子育てについての考え方で、あなたのご意見に最も近いものはどれでしょうか。」の(2)「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」という考え方について、「賛成」758人 49.3%(51.1%)、「どちらかといえば賛成」394人 25.6%(26.6%)「どちらかといえば反対」168人 10.9%(11.3%)、「反対」43人 2.8%(2.9%)、「わからない」119人 7.7%(8.0%)、「無記入」57人 3.7%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「賛成」と「どちらかといえば賛成」合わせて 7.4%高くなっています。「どちらかといえば反対」と「反対」合わせて 3.2%低くなっています。「わからない」はほとんど変化がありませんが、無記入は 4.9%減っています。

説明変数との多重相関は 0.362 で有意な分析です。年齢と大きな関連があります。次いで、性別の関連性が高いです。小学校での人権教育、中学校での人権教育、高校での人権教育とは有意な関連はありません。

問2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する考え方

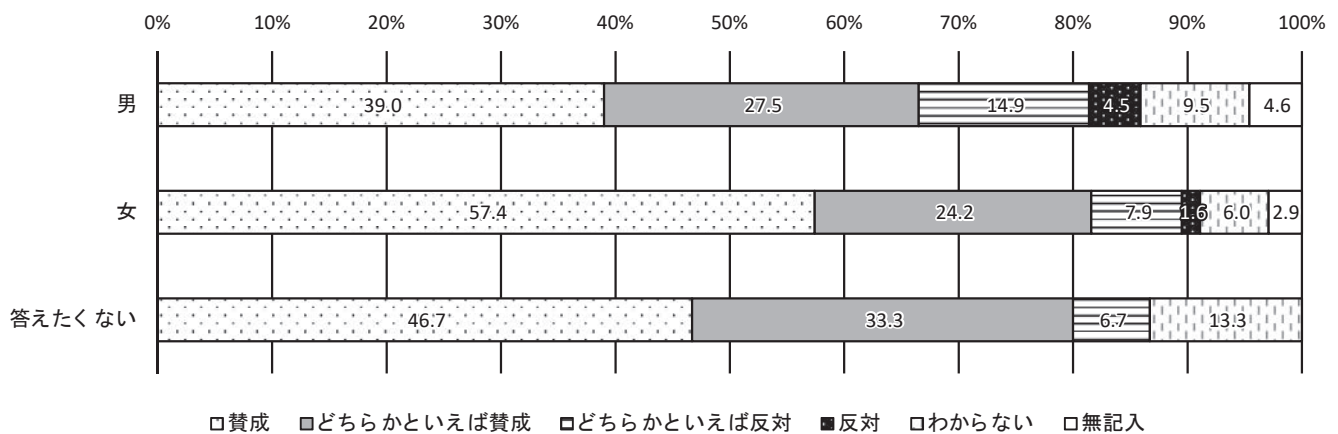
(2) 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい × 年齢



結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいについて、「賛成」は18～19歳で81.5%、20歳代67.8%と若い人ほど高くなっています。70歳代35.3%、80歳以上では25.1%となっています。

問2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する考え方

(2) 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい × 性別



結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいについて、「賛成」は男性39.0%、女性57.4%、「どちらかといえば反対」が男性14.9%、女性7.9%となっています。

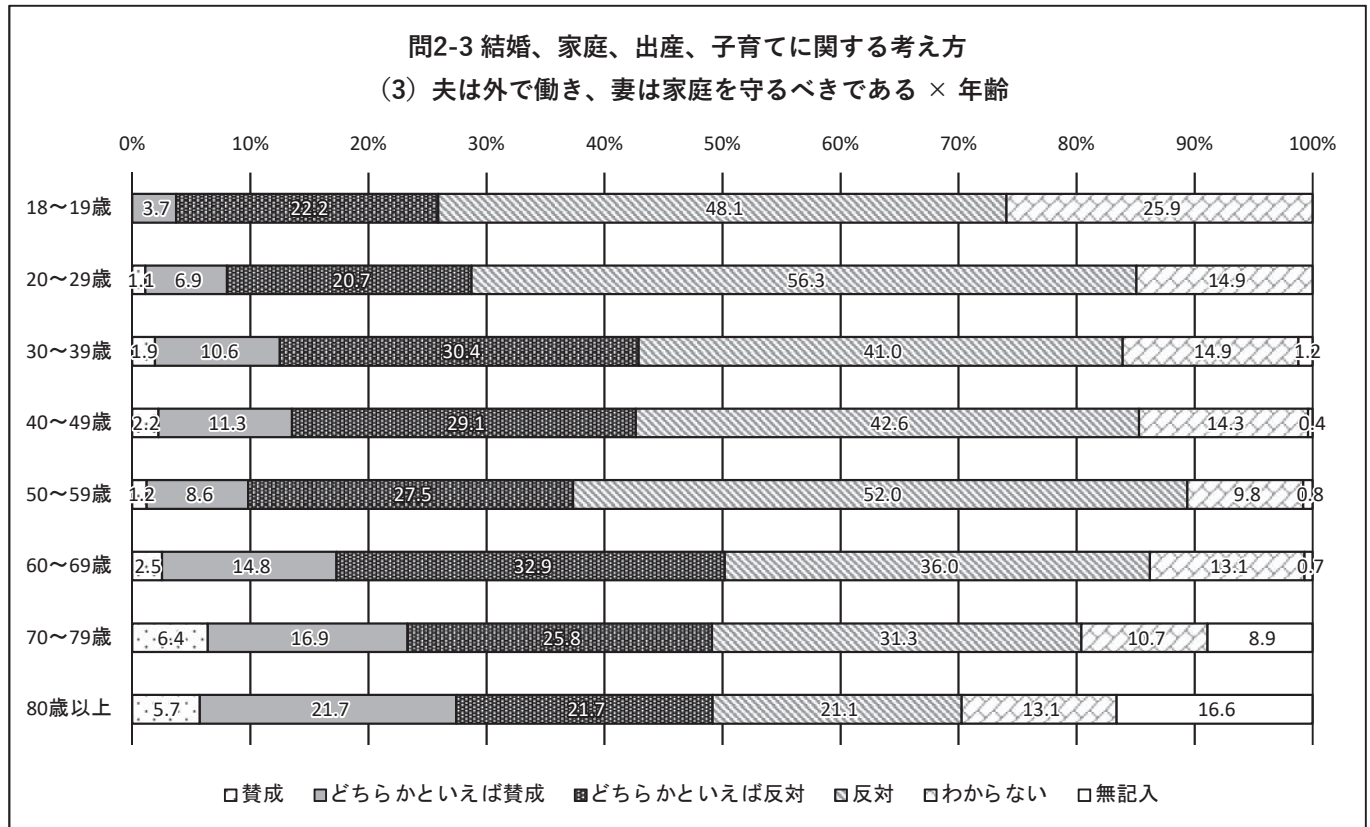
(3) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	賛成	51	3.3	3.5	4.5
2	どちらかといえば賛成	206	13.4	14.0	17.9
3	どちらかといえば反対	423	27.5	28.7	25.7
4	反対	596	38.7	40.5	30.7
5	わからない	197	12.8	13.4	12.6
	無記入	66	4.3		8.7
	N (%ベース)	1,539	100	1,473	1,996

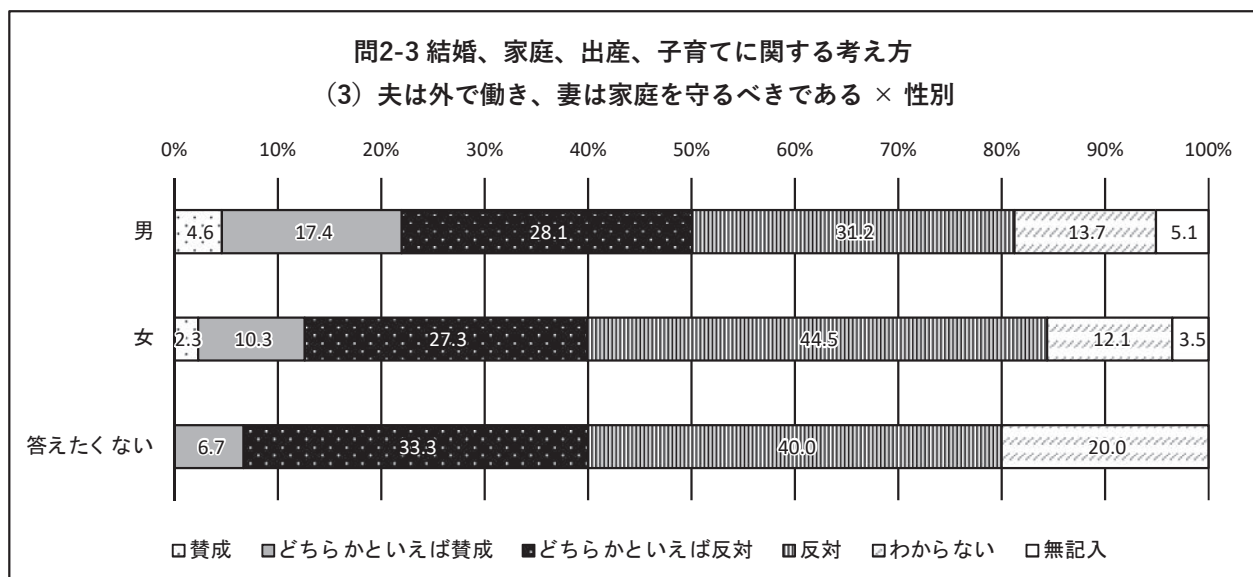
「結婚、家庭、出産、子育てについての考え方で、あなたのご意見に最も近いものはどれでしょうか。」の(3)「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「賛成」51人3.3%(3.5%)、「どちらかといえば賛成」206人13.4%(14.0%)、賛成が合わせて16.7%になります。「どちらかといえば反対」423人27.5%(28.7%)、「反対」596人38.7%(40.5%)、反対が合わせて66.2%となります。「わからない」197人12.8%(13.4%)、「無記入」66人4.3%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「反対」8.0%、「どちらかといえば反対」1.8%、反対が合わせて9.8%高くなり、「賛成」1.2%、「どちらかといえば賛成」4.5%、賛成が合わせて5.7%低くなっています。「わからない」はほとんど変化なく、「無記入」は4.4%低くなっています。

説明変数との多重相関は0.306で有意な分析です。年齢が最も関連性が高く、次いで、性別、中学校での人権教育、大学での人権教育、職業となっています。広報紙の人権に関する記事を読んだことがあるか、人権に関する映画やビデオ、テレビ、ラジオの視聴とは有意な関連はありません。



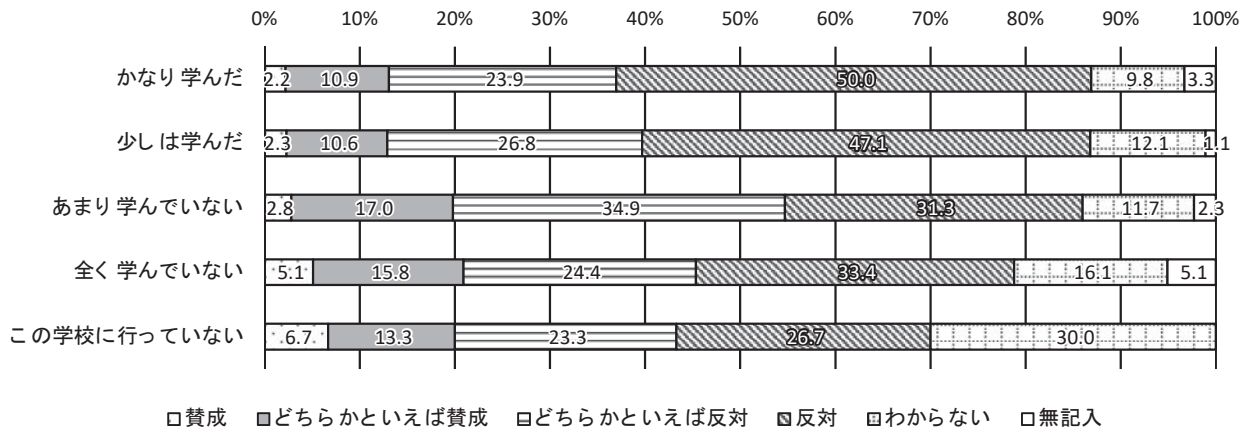
「賛成」、「どちらかといえば賛成」は年齢とともに高くなっていますが、最も多い80歳以上でも両方合わせ27.4%です。「反対」は18～19歳48.1%、20歳代56.3%、30歳代41.0%、40歳代42.6%、50歳代52.0%、60歳代36.0%、70歳代31.3%、80歳以上21.1%となっています。



「賛成」が男性4.6%・女性2.3%、「どちらかといえば賛成」は男性17.4%・女性10.3%、「反対」は男性31.2%・女性44.5%となっています。

問2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する考え方

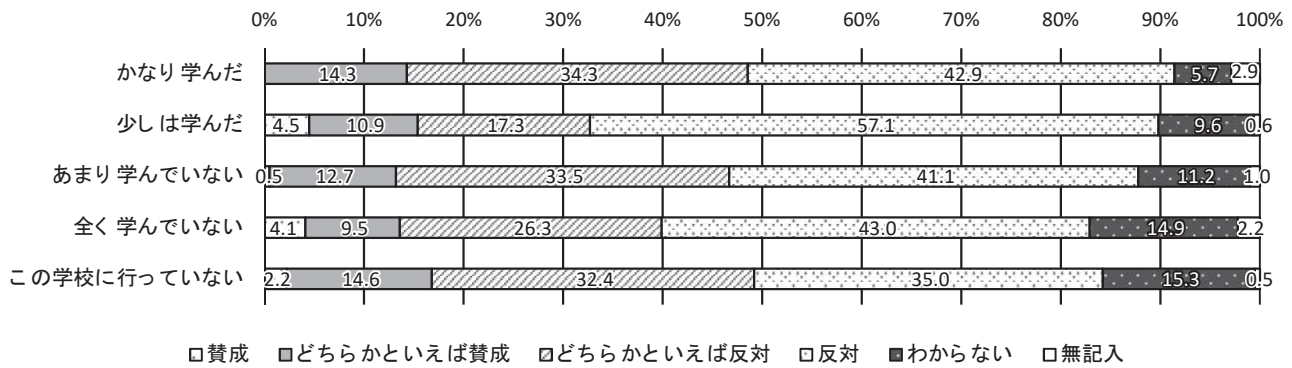
(3) 夫は外で働き妻は家庭を守るべきである × 問9 (2) 中学校での人権教育



「どちらかといえば賛成」が、中学校で人権教育をかなり学んだ人では 10.9%、少しは学んだでは 10.6%、あまり学んでいないでは 17.0%、全く学んでいないでは 15.8%となっています。「反対」は、中学校で人権教育をかなり学んだでは 50.0%、少しは学んだでは 47.1%、あまり学んでいないでは 31.3%、全く学んでいないでは 33.4%となっています。

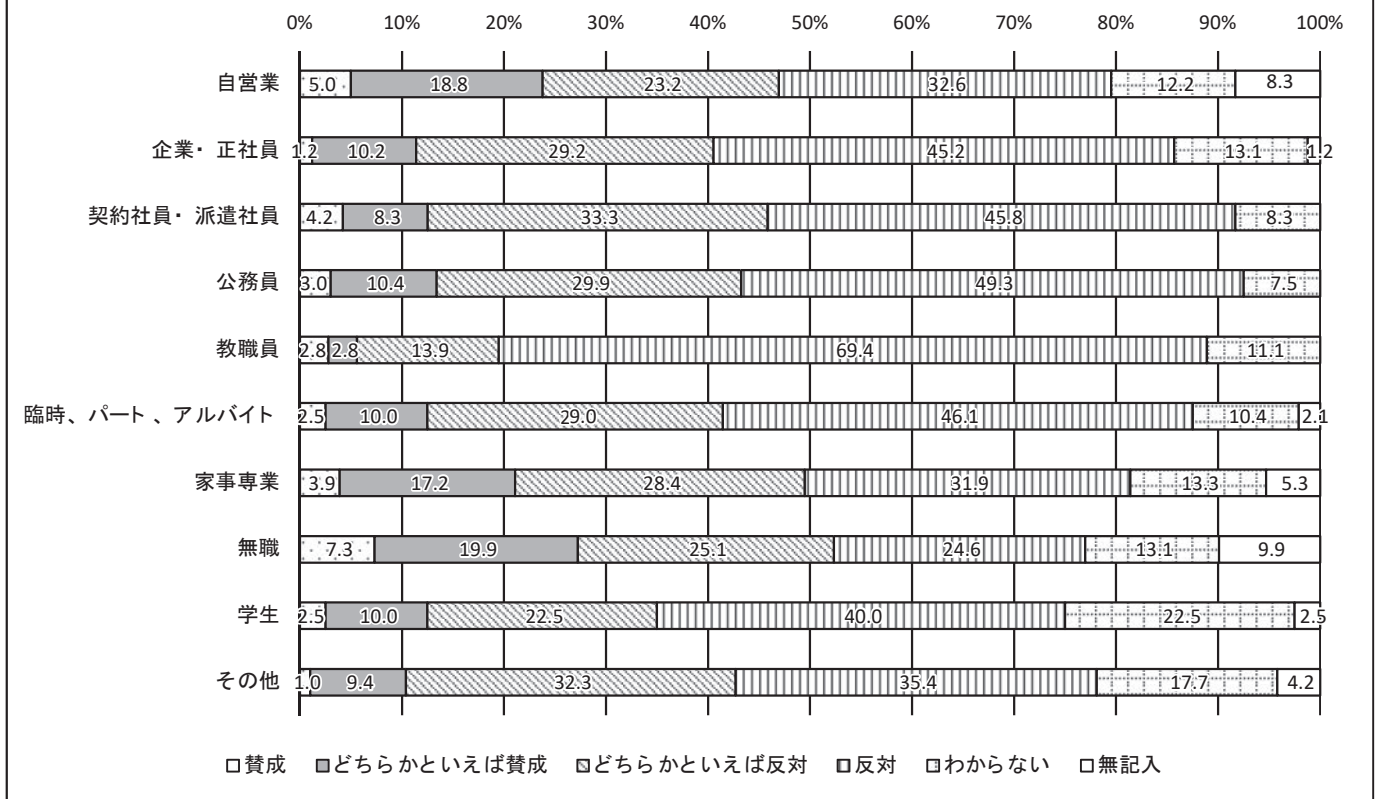
問2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する考え方

(3) 夫は外で働き妻は家庭を守るべきである × 問9 (4) 大学での人権教育



「反対」が大学(短大・高専)等での人権教育をかなり学んだでは 42.9%、少しは学んだでは 57.1%、あまり学んでいないでは 41.1%、全く学んでいないでは 43.0%となっています。「わからない」が大学(短大・高専)等での人権教育をかなり学んだでは 5.7%、少しは学んだでは 9.6%、あまり学んでいないでは 11.2%、全く学んでいないでは 14.9%となっています。

問2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する考え方
(3) 夫は外で働き妻は家庭を守るべきである × 職業



無職、家事専業、自営業で「賛成」「どちらかといえば賛成」が多く、教職員、公務員、企業の正社員、臨時・パート・アルバイトで「反対」が高くなっています。

(4) 女性は結婚したら、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	賛成	92	6.0	6.2	9.6
2	どちらかといえば賛成	359	23.3	24.3	30.2
3	どちらかといえば反対	365	23.7	24.7	20.6
4	反対	443	28.8	30.0	18.3
5	わからない	216	14.0	14.6	12.1
	無記入	64	4.2		9.2
	N (%ベース)	1,539	100	1,475	1,996

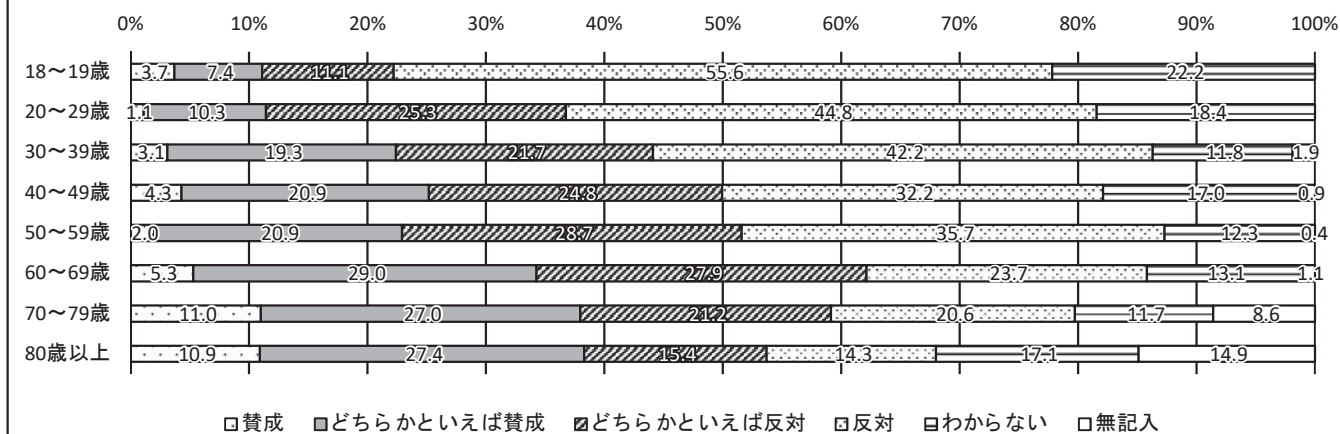
「結婚、家庭、出産、子育てについての考え方で、あなたのご意見に最も近いものはどれでしょうか。」の(4)「女性は結婚したら、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい」という考え方について、「賛成」92人 6.0% (6.2%)、「どちらかといえば賛成」359人 23.3% (24.3%)、「どちらかといえば反対」365人 23.7% (24.7%)、「反対」443人 28.8% (30.0%)、「わからない」216人 14.0% (14.6%)、「無記入」64人 4.2%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「反対」10.5%、「どちらかといえば反対」3.1%、反対が合わせて 13.6%高くなり、「賛成」3.6%、「どちらかといえば賛成」6.9%、賛成が合わせて 10.5%低くなっています。「わからない」が 1.9%高くなり、「無記入」は 5.0%低くなっています。

説明変数との多重相関は 0.307 で有意な分析です。年齢の関連性が高く、次いで、職業、性別、小学校での人権教育となっています。広報紙の人権に関する記事を読んだことがあるか、人権に関する映画やビデオ、テレビ、ラジオの視聴、人権に関する講演会や研修会等への参加とは有意な関連はありません。

問2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する考え方

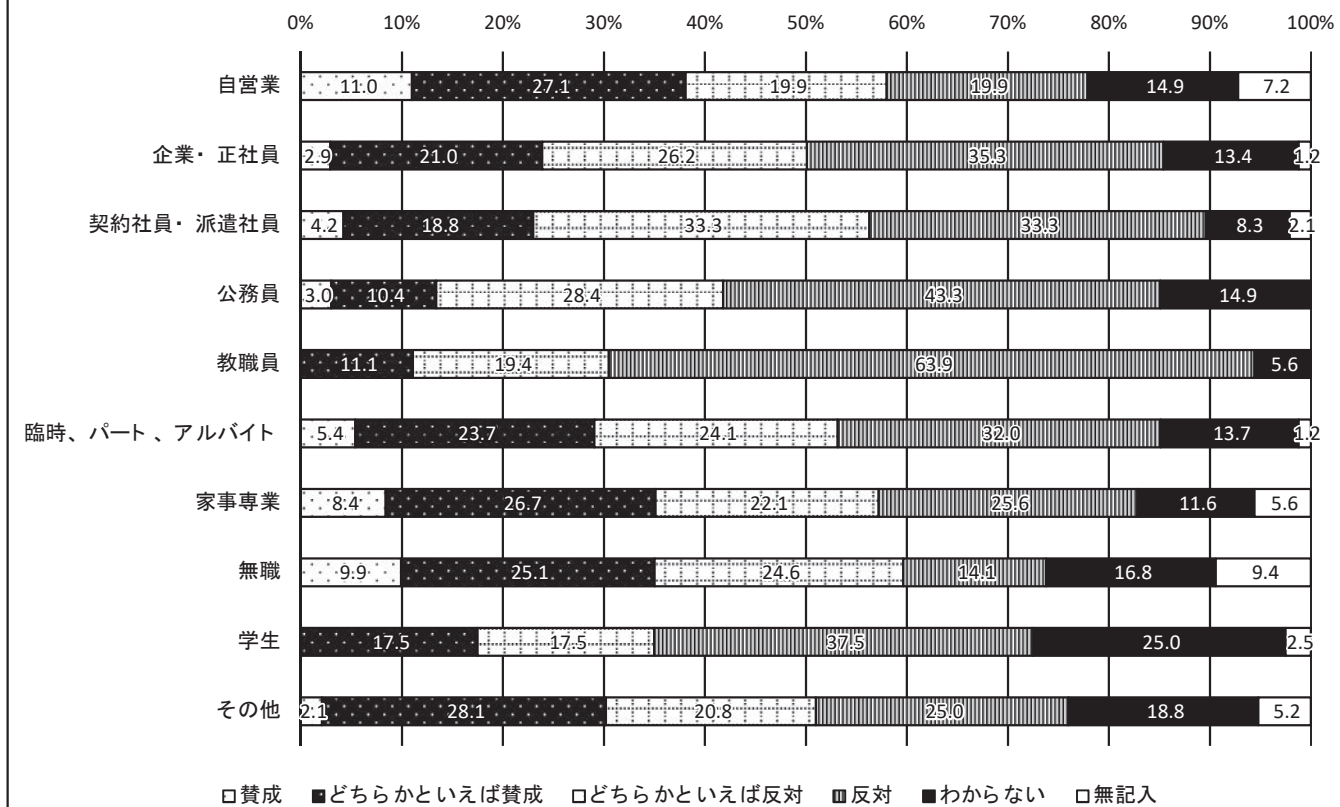
(4) 女性は結婚したら夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい × 年齢



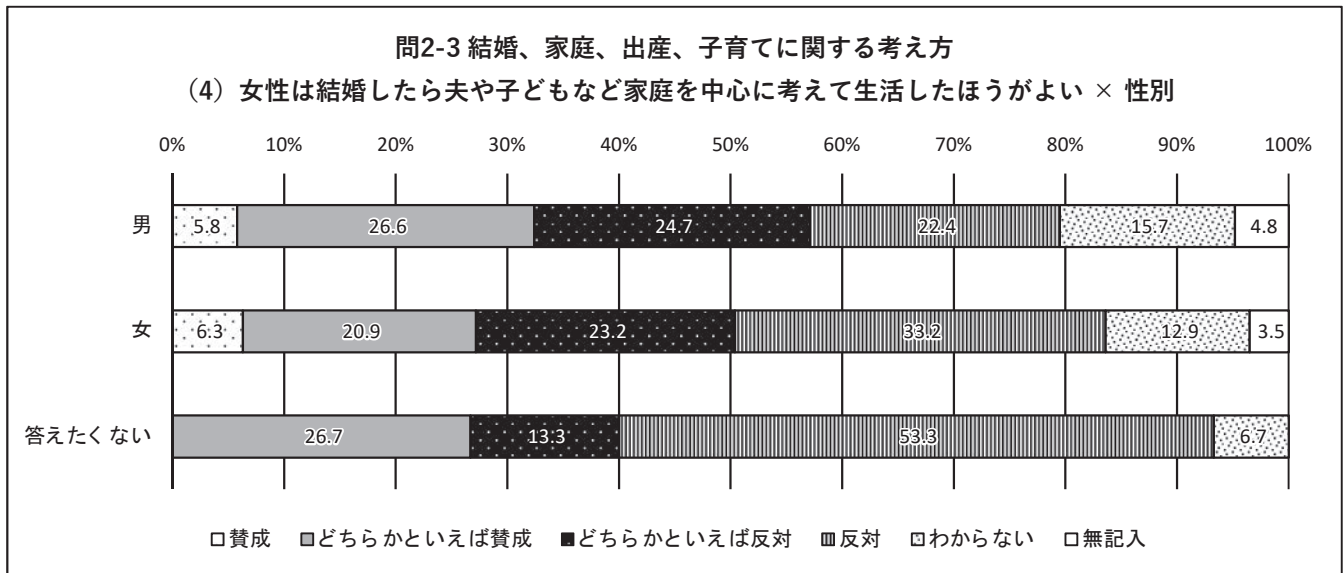
女性は結婚したら、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよいについて、「賛成」・「どちらかといえば賛成」は若い人で少なく、年齢が高い人で多くなっています。「反対」は20歳代で44.8%、30歳代で42.2%と若い人で多く、年齢の高い人で少なくなっています。

問2-3 結婚、家庭、出産、子育てに関する考え方

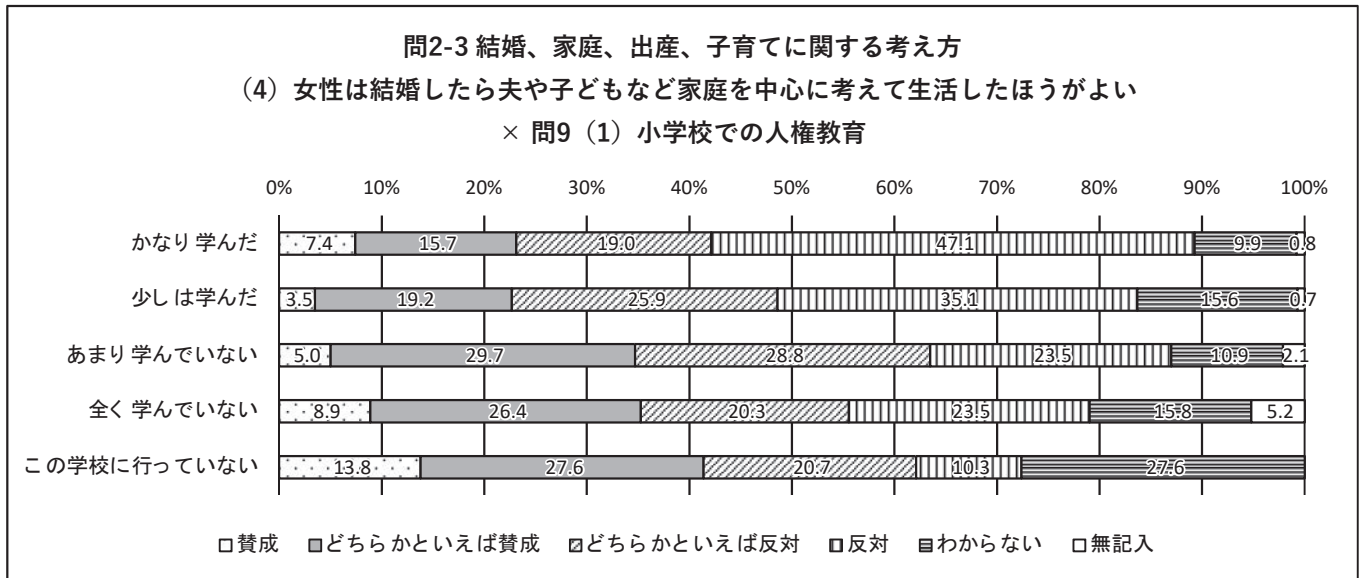
(4) 女性は結婚したら夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい × 職業



「賛成」・「どちらかといえば賛成」は、自営業合わせて38.1%、家事専業35.1%、無職35.0%と高く、「反対」が教職員63.9%、公務員43.3%、企業団体の正社員・正職員35.3%、学生37.5%と高くなっています。



「どちらかといえば賛成」が男性で26.6%・女性で20.9%、「反対」が男性で22.4%・女性で33.2%となっています。



「賛成」・「どちらかといえば賛成」が、小学校で人権教育をかなり学んだ23.1%・少しは学んだ22.7%と低く、あまり学んでいない34.7%・全く学んでいない35.3%と高くなっています。「反対」は、小学校で人権教育をかなり学んだ47.1%・少しは学んだ35.1%で高く、あまり学んでいない23.5%・全く学んでいない23.5%と低くなっています。

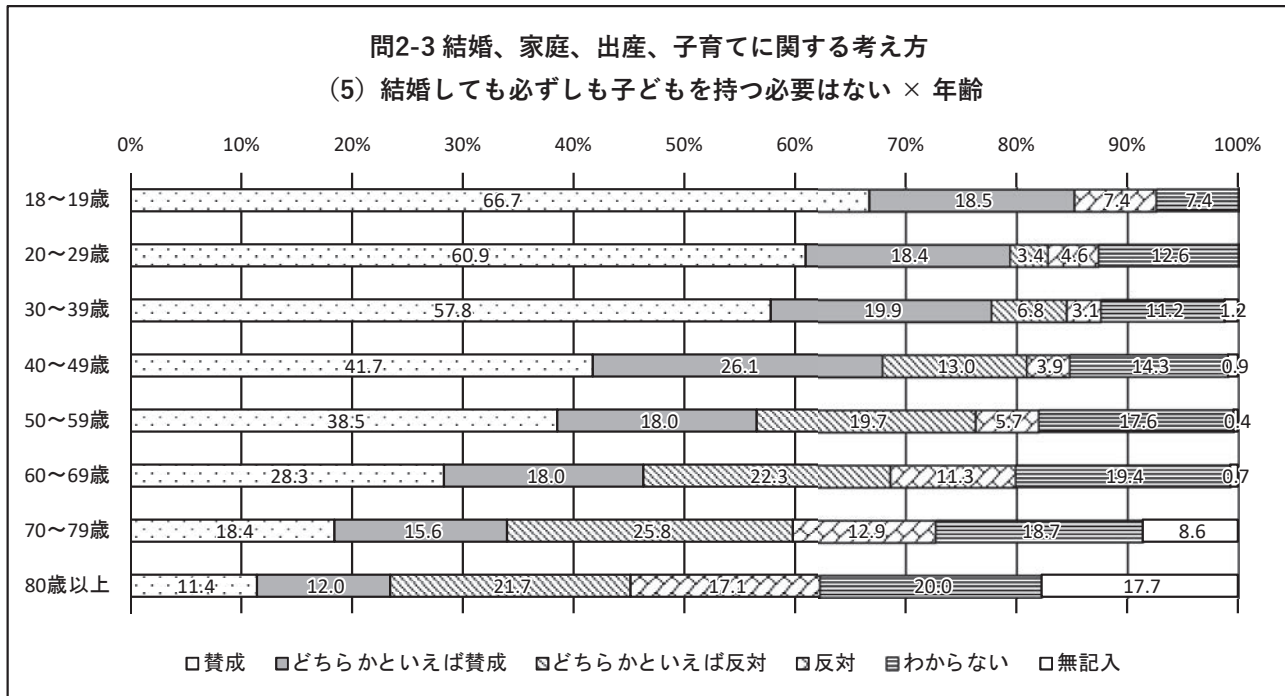
(5) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	賛成	515	33.5	35.0	22.5
2	どちらかといえば賛成	280	18.2	19.0	20.4
3	どちらかといえば反対	280	18.2	19.0	18.5
4	反対	138	9.0	9.4	12.6
5	わからない	259	16.8	17.6	16.7
	無記入	67	4.4		9.3
	N (%ベース)	1,539	100	1,472	1,996

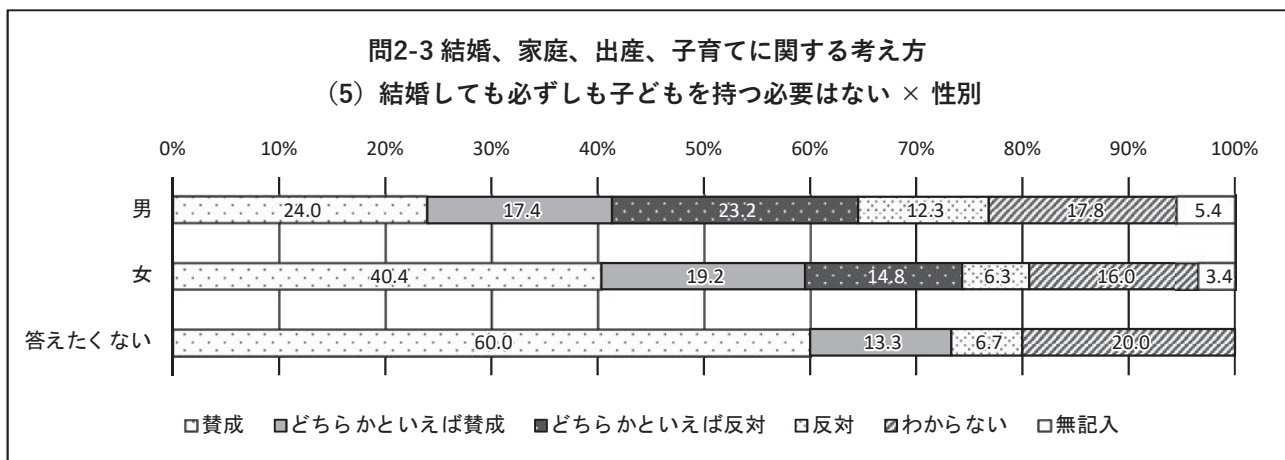
「結婚、家庭、出産、子育てについての考え方で、あなたのご意見に最も近いものはどれでしょうか。」の(5)「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について、「賛成」515人33.5%(35.0%)、「どちらかといえば賛成」280人18.2%(19.0%)、「どちらかといえば反対」280人18.2%(19.0%)、「反対」138人9.0%(9.4%)、「わからない」259人16.8%(17.6%)、「無記入」67人4.4%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「賛成」が 11.0%高くなり、「どちらかといえば賛成」が 2.2%、「反対」が 3.6%低くなっています。「わからない」は変化なく、「無記入」は 4.9%低くなっています。

説明変数との多重相関は 0.449 でかなり高い相関の有意な分析です。年齢と強い関連があり、次いで性別となっています。人権に関する映画やビデオ、テレビ、ラジオの視聴とは有意な相関はありません。



18～19歳で「賛成」66.7%、80歳以上で 11.4%と、明確に若い人ほど「賛成」が多くなっています。年齢の高い人ほど「わからない」が多くなっています。



「賛成」が男性で 24.0%、女性 40.4%、「どちらかといえば反対」が男性 23.2%・女性 14.8%、「反対」が男性 12.3%・女性 6.3%となっています。

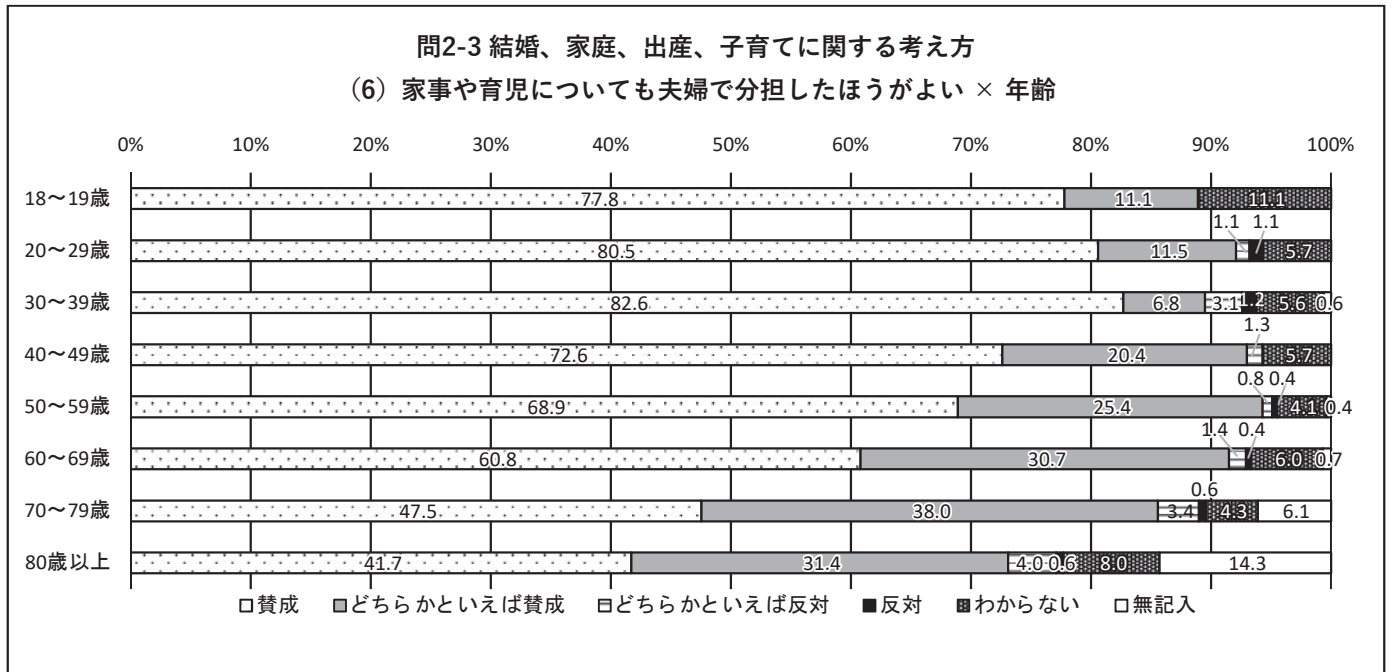
(6) 家事や育児についても夫婦で分担したほうがよい

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	賛成	961	62.4	64.5	51.5
2	どちらかといえば賛成	400	26.0	26.9	31.6
3	どちらかといえば反対	34	2.2	2.3	2.9
4	反対	8	0.5	0.5	0.9
5	わからない	86	5.6	5.8	5.4
	無記入	50	3.2		7.8
	N (%ベース)	1,539	100	1,489	1,996

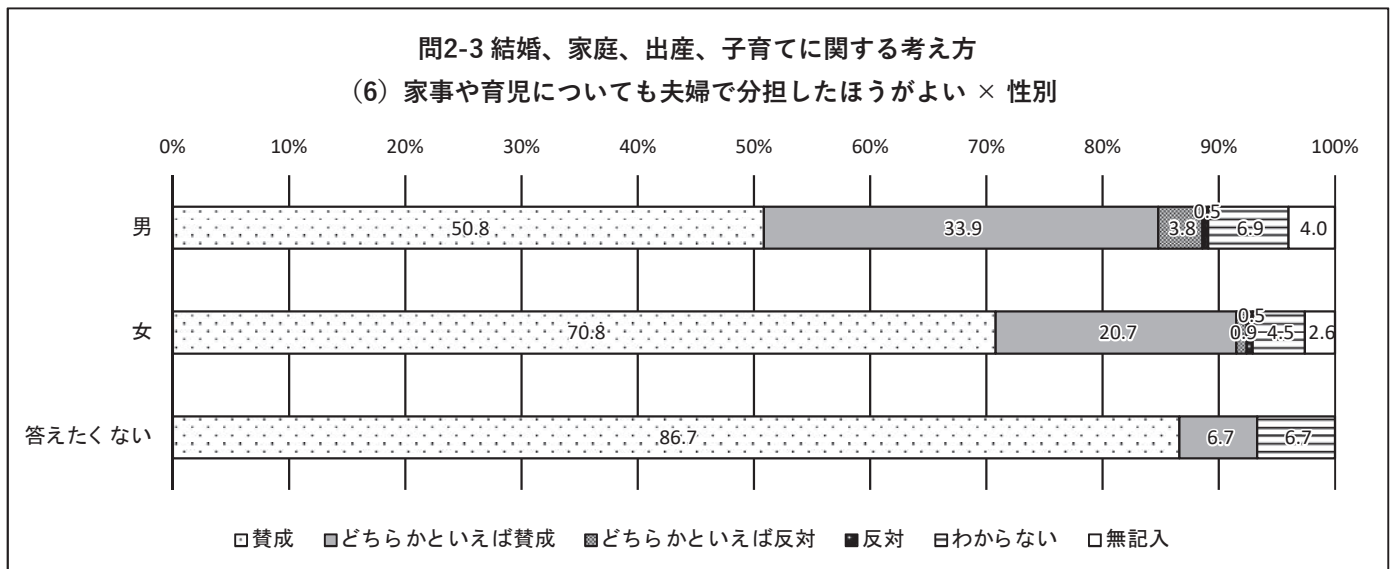
「結婚、家庭、出産、子育てについての考え方で、あなたのご意見に最も近いものはどれでしょうか。」の(6)「家事や育児についても夫婦で分担したほうがよい」という考え方について、「賛成」961人 62.4%(64.5%)、「どちらかといえば賛成」400人 26.0%(26.9%)、「どちらかといえば反対」34人 2.2%(2.3%)、「反対」8人 0.5%(0.5%)、「わからない」86人 5.6%(5.8%)、「無記入」50人 3.2%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「賛成」が10.9%高くなり、「どちらかといえば賛成」が5.6%低くなっています。「わからない」は変化なく、「無記入」は4.6%低くなっています。

説明変数との多重相関は0.257でやや低い相関ですが、有意な分析です。年齢と強い関連があり、次いで性別となっています。広報紙の人権に関する記事を読んだことがあるか、人権に関する映画やビデオ、テレビ、ラジオの視聴とは有意な相関はありません。



18～19歳で「賛成」が77.8%、80歳以上で41.7%と、年齢が若い人ほど賛成が多いです。「どちらかといえば賛成」が、18～19歳で11.1%、80歳以上31.4%と年齢が高いほど多くなっています。



「賛成」が男性で50.8%・女性で70.8%、「どちらかといえば賛成」が男性で33.9%・女性で20.7%となっています。

5. 高齢者

問 3-1 高齢者の状況をどう感じていますか

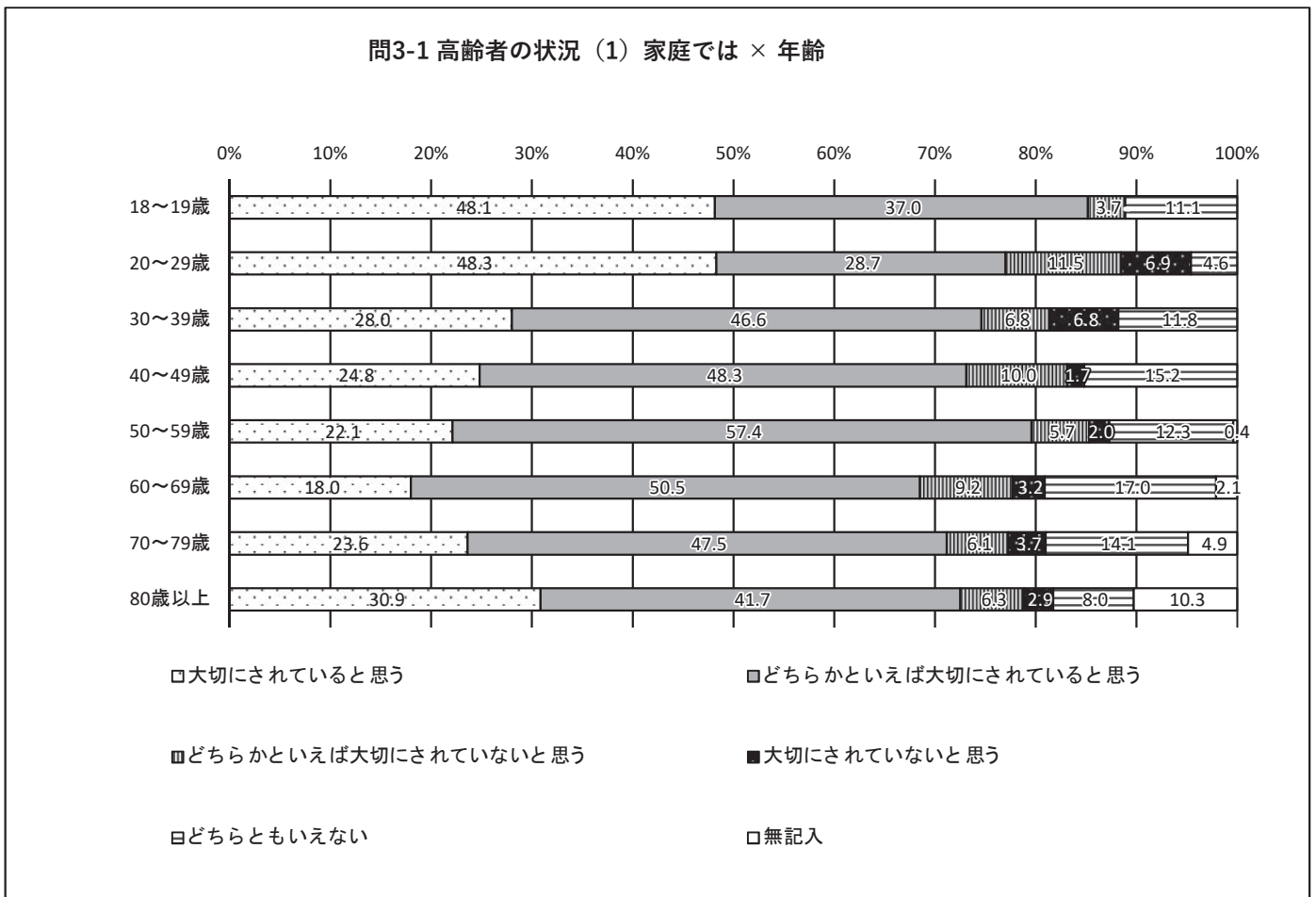
(1) 家庭では

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	大切にされていると思う	394	25.6	26.3	24.1
2	どちらかといえば大切にされていると思う	735	47.8	49.1	48.1
3	どちらかといえば大切にされていないと思う	116	7.5	7.7	8.1
4	大切にされていないと思う	52	3.4	3.5	3.5
5	どちらともいえない	200	13.0	13.4	11.6
	無記入	42	2.7		4.6
	N (%ベース)	1,539	100	1,497	1,996

「あなたは、高齢者の状況をどう感じていますか。」の(1)「家庭では」について、「大切にされていると思う」394人 25.6%(26.3%)、「どちらかといえば大切にされていると思う」735人 47.8%(49.1%)、「どちらかといえば大切にされていないと思う」116人 7.5%(7.7%)、「大切にされていないと思う」52人 3.4%(3.5%)、「どちらともいえない」200人 13.0%(13.4%)、「無記入」42人 2.7%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ大きな変化はありませんが、「大切にされていると思う」が 1.5%・「どちらともいえない」が 1.4%高くなっています。

多重相関は 0.245 で有意な分析です。年齢が最も関連性が高く、次いで職業となっています。性別・広報紙の人権関係記事・人権関係のテレビ・ビデオ・ラジオの視聴とは有意な関連はありません。



家庭では「大切にされていると思う」が 20 歳代で 48.3%と最も高く、60 歳代で 18.0%と最も少なくなっています。70 歳代 23.6%・80 歳代 30.9%となっています。

問3-1 高齢者の状況 (1) 家庭では × 職業



「大切にされていると思う」が、学生で 42.5%、企業の正社員で 29.2%、公務員で 28.4%と多く、教職員 11.1%、家事専業 21.8%、企業団体の契約派遣社員で 22.9%と低くなっています。

(2) 社会(地域生活など)では

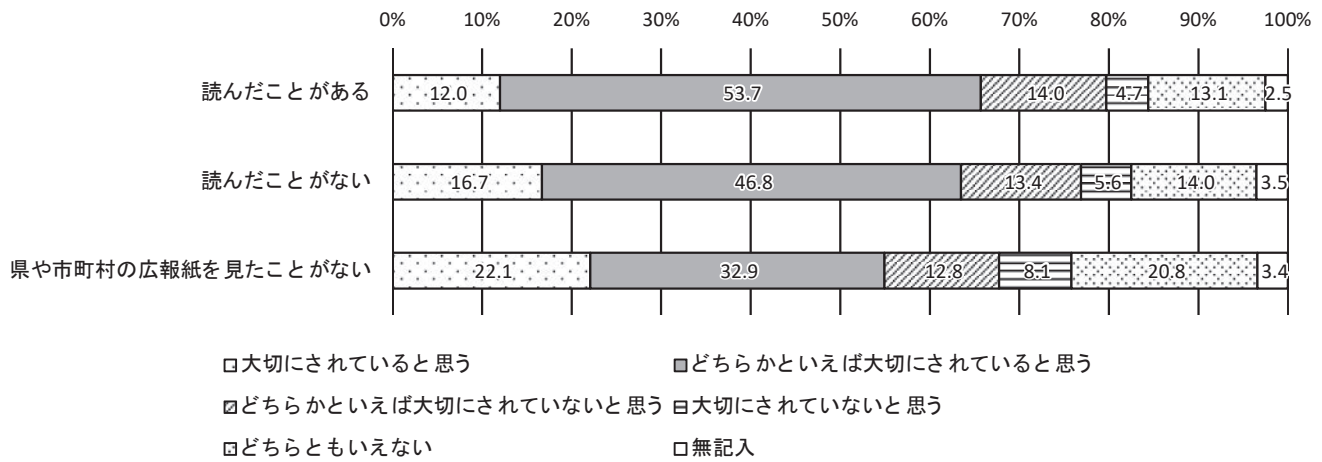
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	大切にされていると思う	226	14.7	15.2	14.8
2	どちらかといえば大切にされていると思う	753	48.9	50.5	48.9
3	どちらかといえば大切にされていないと思う	212	13.8	14.2	12.9
4	大切にされていないと思う	81	5.3	5.4	4.8
5	どちらともいえない	218	14.2	14.6	12.3
	無記入	49	3.2		6.3
	N (%ベース)	1,539	100	1,490	1,996

「あなたは、高齢者の状況をどう感じていますか。」の(2)「社会(地域生活など)では」について、「大切にされていると思う」226人 14.7%(15.2%)、「どちらかといえば大切にされていると思う」753人 48.9%(50.5%)、「どちらかといえば大切にされていないと思う」212人 13.8%(14.2%)、「大切にされていないと思う」81人 5.3%(5.4%)、「どちらともいえない」218人 14.2%(14.6%)、「無記入」49人 3.2%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「どちらともいえない」が 1.9%高くなり、無記入が 3.1%低くなっていますが、大きな変化は見られません。

多重相関は 0.260 で有意な分析です。広報紙の人権関係記事が最も関連性が高く、次いで職業、年齢、中学校での人権教育の順となっています。性別、人権関係のテレビ・ビデオ・ラジオの視聴、人権に関する講演会や研修会等への参加とは有意な関連はありません。

問3-1 高齢者の状況 (2) 社会 (地域生活など) では
 × 問1-9 行政広報紙の人権に関する記事を読んだことがあるか



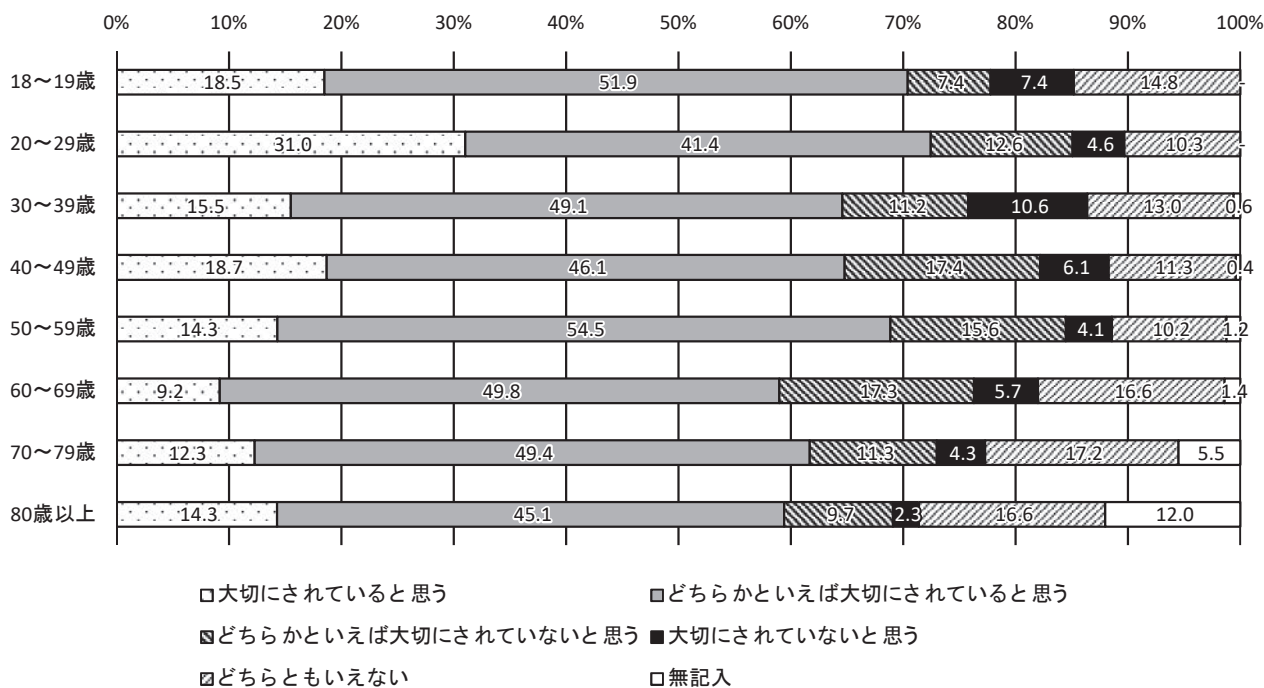
社会(地域生活など)では「大切にされていると思う」は、広報紙の記事を読んだことがあるでは 12.0%、読んだことがないでは 16.7%、広報紙を見たことがないでは 22.1%となっています。「どちらかといえば大切にされていると思う」は、広報紙の記事を読んだことがあるでは 53.7%、読んだことがないでは 46.8%、広報紙を見たことがないでは 32.9%となっています。

問3-1 高齢者の状況 (2) 社会 (地域生活など) では × 職業



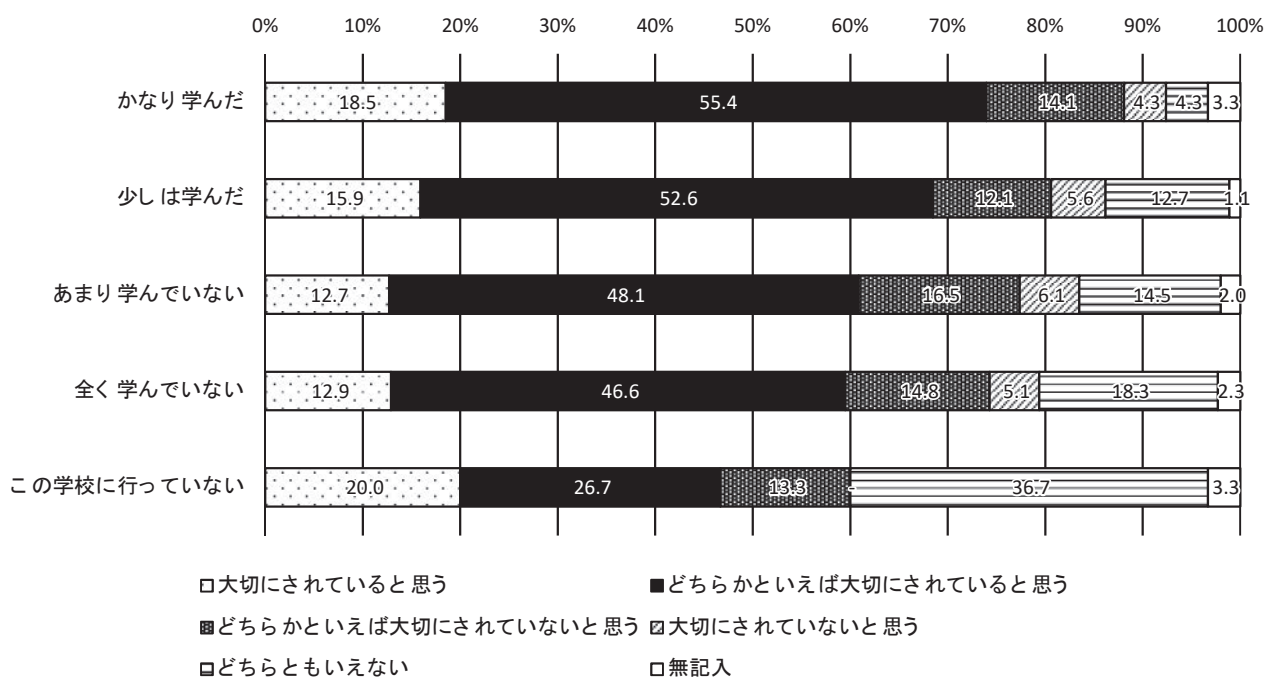
「大切にされていると思う」が、学生で 30.0%と高く、「どちらかといえば大切にされていると思う」が教職員 69.4%、公務員 56.7%、家事専業で 54.0%と高くなっています。

問3-1 高齢者の状況 (2) 社会 (地域生活など) では × 年齢



「大切にされていると思う」が20歳代で31.0%と高く、60歳代で9.2%と低くなっています。「どちらともいえない」が20歳代で10.3%、70歳代で17.2%と高くなっています。

問3-1 高齢者の状況 (2) 社会 (地域生活など) では × 問9 (2) 中学校での人権教育



「どちらかといえば大切にされている」が、中学校での人権教育をかなり学んだで55.4%と高く、全く学んでいないで46.6%と低くなっています。

「どちらともいえない」が、かなり学んだで4.3%と少なく、全く学んでいないで18.3%と高くなっています。

問 3-2 高齢者に関することで、現在、どのような人権問題があると思いますか

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
4	振り込め詐欺や悪徳商法	879	57.1	58.3	47.5	44.7
7	一人暮らし、寝たきり等への不安や不便	773	50.2	51.2	51.0	
1	経済的な自立が難しい	766	49.8	50.8	49.1	27.9
2	働ける能力を発揮する機会が少ない	558	36.3	37.0	37.5	28.4
8	アパート等への入居拒否	393	25.5	26.0	17.3	22.2
6	病院や施設における劣悪な扱いや虐待	391	25.4	25.9	27.4	33.6
5	家庭内における嫌がらせや虐待	288	18.7	19.1	18.7	22.0
3	差別的な言動	166	10.8	11.0		17.8
9	意見や行動が尊重されない	136	8.8	9.0		14.9
11	特に問題はない	93	6.0	6.2	7.4	13.5
12	わからない	65	4.2	4.3	4.2	
10	その他	20	1.3	1.3	1.8	0.7
	無記入	30	1.9		2.3	1.2
	N (%ベース)	1,539	100	1,509	1,996	1,556

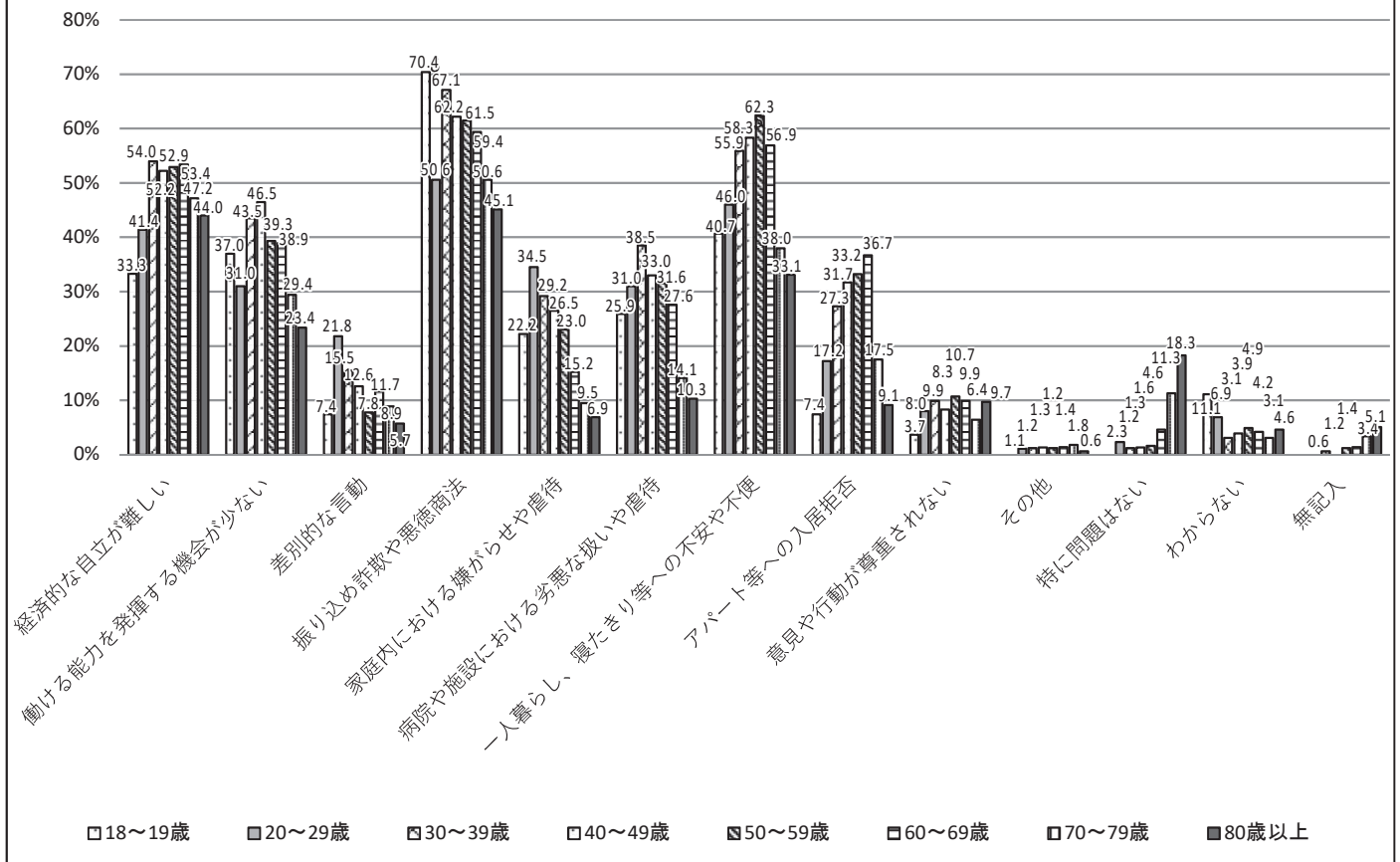
「あなたは、高齢者に関することで、現在、どのような人権問題があると思いますか。(複数回答可)」について、1位「4.振り込め詐欺や悪徳商法の被害者が多いこと」879人 57.1%(58.3%)、2位「7.一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安やそれらによる不便があること」773人 50.2%(51.2%)、3位「1.経済的な自立が難しいこと」766人 49.8%(50.8%)、4位「2.働ける能力を発揮する機会が少ないこと」558人 36.3%(37.0%)、5位「8.アパート等への入居を拒否されること」393人 25.5%(26.0%)、6位「6.病院や施設において、劣悪な扱いや虐待を受けること」391人 25.4%(25.9%)、7位「5.家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること」288人 18.7%(19.1%)、8位「3.差別的な言動をされること」166人 10.8%(11.0%)、9位「9.意見や行動が尊重されないこと」136人 8.8%(9.0%)、10位「11.特に問題はない」93人 6.0%(6.2%)、11位「12.わからない」65人 4.2%(4.3%)、12位「10.その他」20人 1.3%(1.3%)、「無記入」30人 1.9%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、1位の「振り込め詐欺や悪徳商法の被害者が多いこと」が9.6%・「アパート等への入居を拒否されること」が8.2%高くなっています。「病院や施設において、劣悪な扱いや虐待を受けること」が2.0%・「特に問題はない」が1.4%・「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」が1.2%低くなっています。

全国調査と比べ、3位「経済的な自立が難しいこと」が21.9%・「振り込め詐欺や悪徳商法の被害者が多いこと」が12.4%・「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」が7.9%高く、「病院や施設において、劣悪な扱いや虐待を受けること」が8.2%・「特に問題はない」が7.5%・「差別的な言動をされること」が7.0%・「意見や行動が尊重されないこと」が6.1%低くなっています。

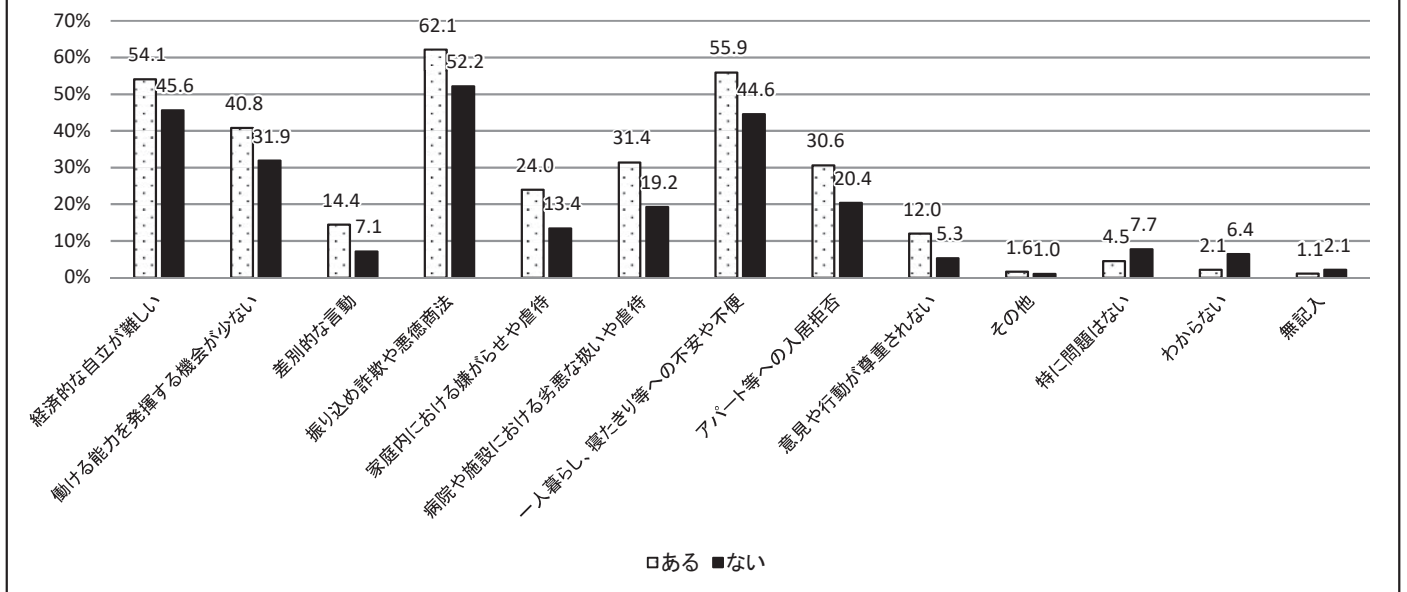
年齢、人権に関する映画・ビデオ・テレビ等の視聴、小学校での人権教育などとの関連性が高いようです。

問3-2 高齢者に関する人権問題 × 年齢

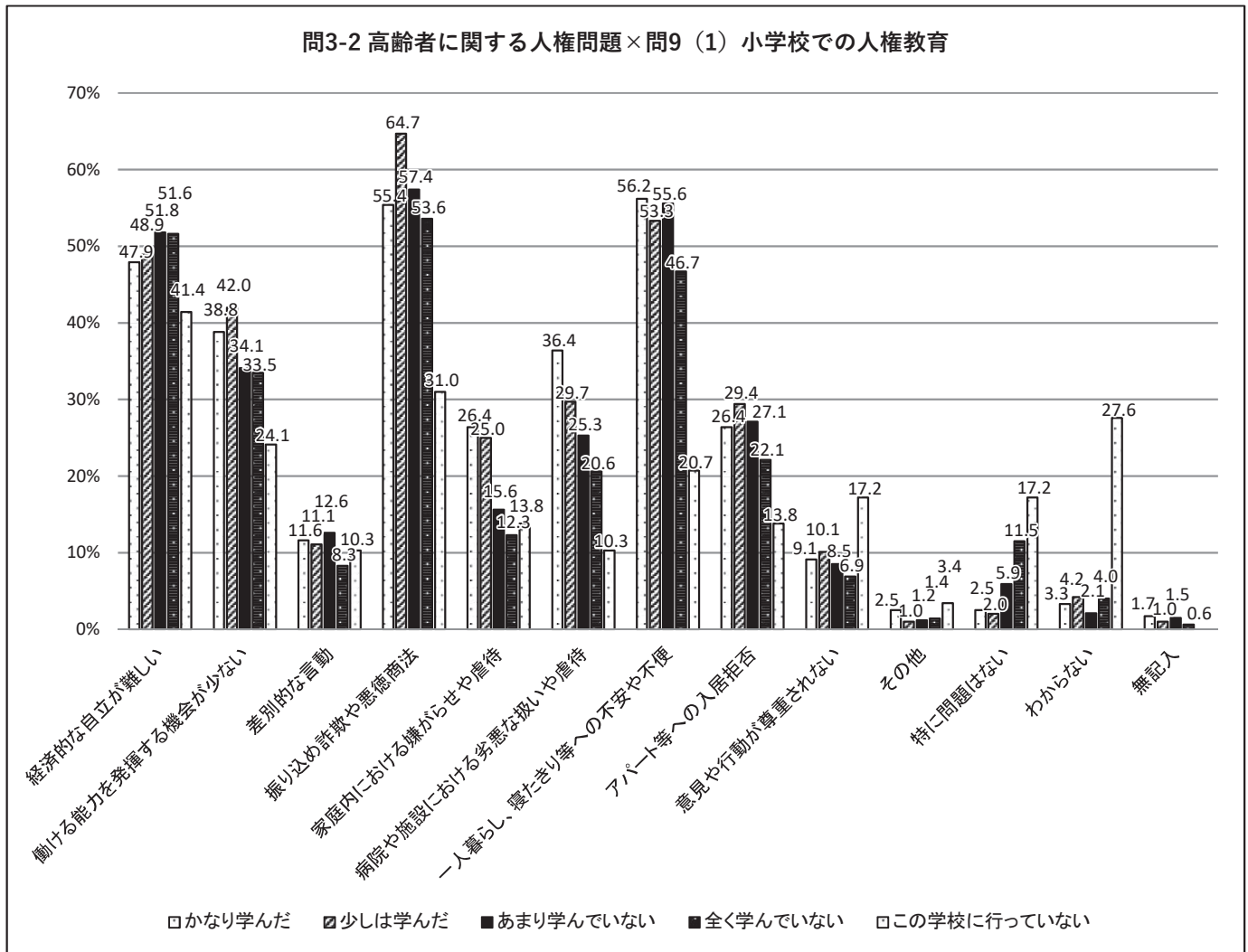


「一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安やそれらによる不便があること」は50歳代で62.3%と最も高く、40歳代58.3%、60歳代56.9%となっています。70歳代では38.0%、80歳以上では33.1%となっています。「病院や施設において、劣悪な扱いや虐待を受けること」は30歳代で38.5%と最も高く、70歳代14.1%、80歳以上10.3%と低くなっています。「振り込め詐欺や悪徳商法の被害が多いこと」は18～19歳で70.4%、30歳代で67.1%、40歳代で62.2%と若い人で高く、70歳代50.6%、80歳以上45.1%と低くなっています。「アパート等への入居を拒否されること」は、60歳代で36.7%と高く、50歳代33.2%、40歳代31.7%が高くなっています。「特に問題はない」は80歳以上で18.3%、70歳代11.3%で高くなっています。

問3-2 高齢者に関する人権問題 × 問1-10 人権に関する映画やテレビの視聴有無



「病院や施設において、劣悪な扱いや虐待を受けること」が人権に関する映画やビデオ、テレビ番組、ラジオ放送を視聴したことがある人で31.4%、視聴したことがない人で19.2%、差別的な言動をされることが視聴したことがある人で14.4%、視聴したことがない人で7.1%、「意見や行動が尊重されないこと」が視聴したことがある人で12.0%、視聴したことがない人で5.3%、「経済的な自立が難しいこと」が視聴したことがある人で54.1%、視聴したことがない人で45.6%、など、ほとんどの項目で差があります。



「振り込め詐欺や悪徳商法の被害者が多いこと」が小学校で人権教育を少しは学んだ人で64.7%と高くなっています。この学校に行っていない人で「意見や行動が尊重されないこと」が17.2%、「特に問題はない」17.2%、「わからない」27.6%と高くなっています。

6. 子どもの人権

問 4-1 子どもの様子をどう感じていますか

(1) 家庭では

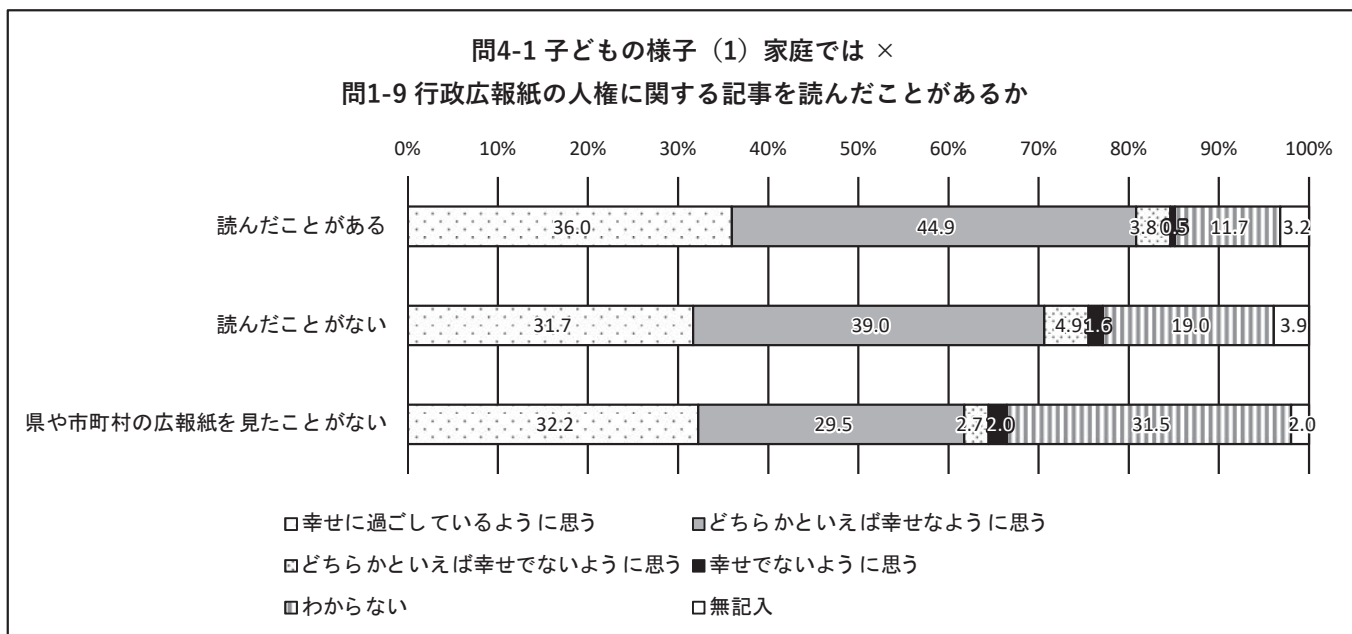
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	幸せに過ごしているように思う	522	33.9	35.2	34.2
2	どちらかといえば幸せなように思う	636	41.3	42.9	44.0
3	どちらかといえば幸せでないように思う	61	4.0	4.1	3.6
4	幸せでないように思う	15	1.0	1.0	1.2
5	わからない	247	16.0	16.7	11.4
	無記入	58	3.8		5.6
	N (%ベース)	1,539	100	1,481	1,996

「あなたは、子どもの様子をどう感じていますか。」の(1)「家庭では」について、「幸せに過ごしているように思う」522人 33.9%(35.2%)、「どちらかといえば幸せなように思う」636人 41.3%(42.9%)、「どちらかといえば幸せでないように思う」61人 4.0%(4.1%)、「幸せでないように思う」15人 1.0%(1.0%)、「わからない」247人 16.0%(16.7%)、「無記入」58人 3.8%、となっています。()内は無記入を除く%です。

前回調査と比べ、「どちらかといえば幸せなように思う」が 2.7%低くなり、「わからない」が 4.6%高くなっています。「無記入」も 1.8%低くなっています。

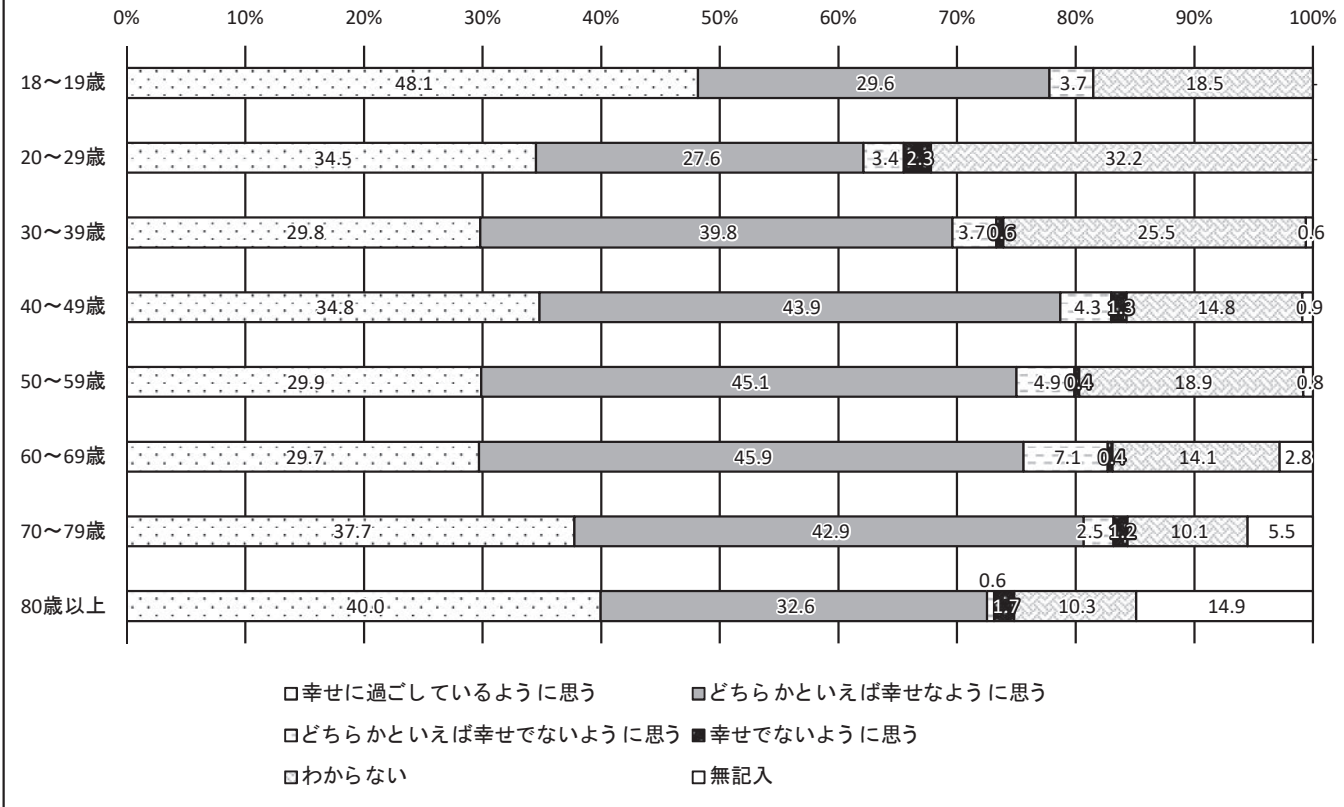
子どもの様子について、家庭で幸せに過ごしていると思うが約 75%（「幸せに過ごしているように思う」33.9%+「どちらかといえば幸せなように思う」41.3%）、幸せでないと思うが約 5%（「どちらかといえば幸せでないように思う」4.0%+「幸せでないように思う」1.0%）、わからないが 16%でした。

多重相関は 0.314 でかなり高い相関で、有意な分析です。広報紙の人権に関する記事を読んだことがあるかや年齢、次いで職業、高校での人権教育と関連があるようです。人権に関する映画、ビデオ、テレビ、ラジオの視聴、人権に関する講演会や研修会等への参加とは有意な関連はありません。



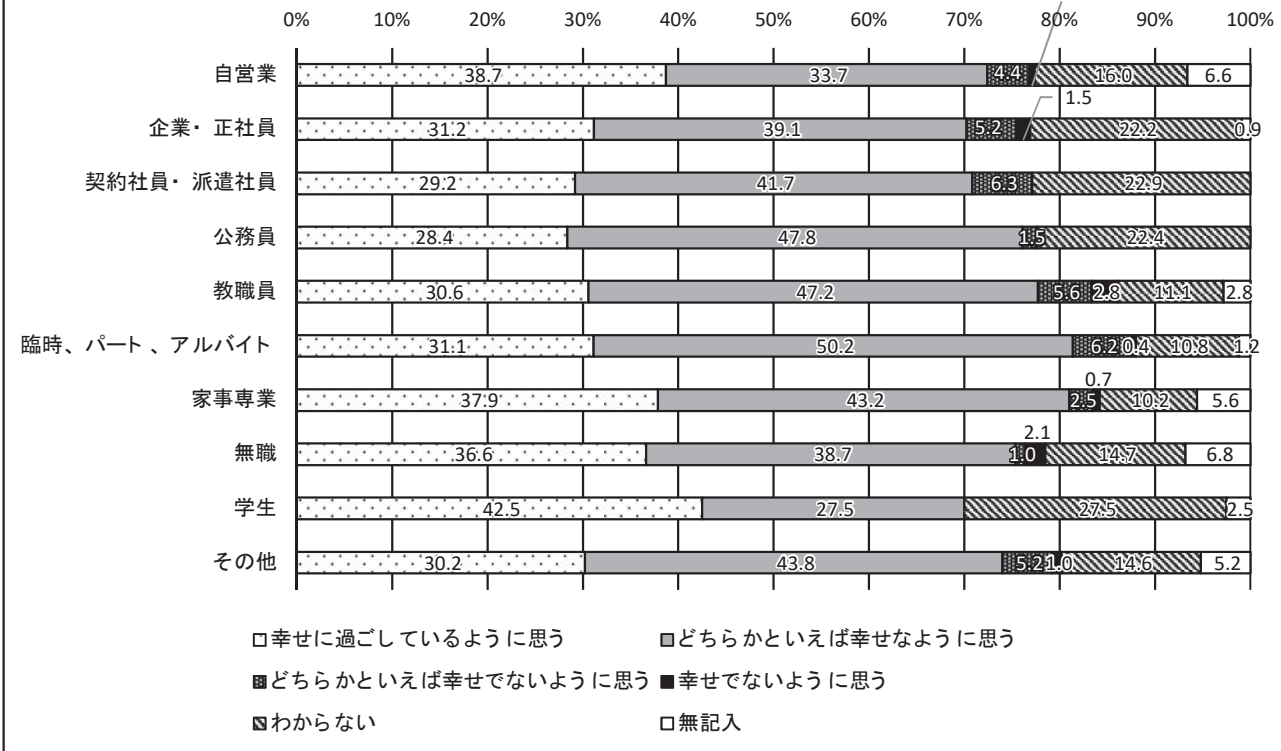
広報紙の人権に関する記事を読んだことがある人で「幸せに過ごしているように思う」が 36.0%、「どちらかといえば幸せなように思う」が 44.9%、「わからない」が 11.7%となっています。読んだことがない人では、「幸せに過ごしているように思う」が 31.7%、「どちらかといえば幸せなように思う」が 39.0%、「わからない」が 19.0%となっています。広報紙を見たことがない人では、「幸せに過ごしているように思う」が 32.2%、「どちらかといえば幸せなように思う」が 29.5%、「わからない」が 31.5%となっています。

問4-1 子どもの様子 (1) 家庭では × 年齢



「幸せでないように思う」が、18～19歳では18.5%と低いですが、20歳代32.2%、30歳代25.5%と若い人で高くなっています。40歳代・50歳代・60歳代・70歳代では「どちらかといえば幸せなように思う」が40%台と高くなっています。

問4-1 子どもの様子 (1) 家庭では × 職業



学生、家事専業、無職、自営業で「幸せに過ごしているように思う」が多く、学生、企業の契約・派遣社員、公務員、企業の正社員で「わからない」が高くなっています。